

ニューノーマル時代の農業と食を 北海道から全国へ、世界へ発信するビジネスイベント

『北海道アグリ・フードフォーラム2021』

2月18日(木)・19日(金)の2日間【初開催】

一般社団法人日本能率協会（JMA、会長：中村正己）は、2021年2月18日（木）～19日（金）の2日間、TKP 札幌ガーデンシティ PREMIUM 札幌大通（札幌市中央区）で、農業と食産業の最新情報とビジネスが集結するイベント「北海道アグリ・フードフォーラム2021」を初開催します。当フォーラムは今年度 JMA が展開している「NEXT150 北海道プロジェクト」の事業の一つです。

本催しは、“食を軸としたバリューチェーン”をコンセプトに、「生産」・「研究開発」・「加工」・「流通」・「販売」の全工程の関係者が集うことで、北海道の一次産業や食関連産業に新たなビジネスやオープンイノベーションの機会を創出する目的で開催します。

最新かつ次代の農や食を考える機会となる「フォーラム」と、関係者間のマーケティングの場となる「併設展示会」を同時に実施し、農業や食産業が有する潜在的な成長余力を最大限に引き出すことで、「力強い農業」や「食ブランドの確立」を目指します。当事業を通じて、北海道地域の活性化と持続可能な産業の発展を促します。

今回2日間の「フォーラム」では16本のセッションをご用意。生産者の高齢化や人手不足といった農業の現場を悩ませる根深い課題に対して解決を導くヒントとなるテーマから、直近のコロナ禍における食品業界の在り方を探る内容、更には月面農場やロボットといった未来の産業を予測した最新情報もあります。

また、「併設展示会」には25社が出展。農業生産や酪農経営の現場の生産性向上につながる最新技術や製品、自動化の進む食品加工技術や道外食材を扱う企業が出展しています。

現在、公式ホームページ（「北海道アグリ・フードフォーラム」で検索、または、http://www.jma.or.jp/hafp/visit/forum_attend.html）にて展示会の来場事前登録、フォーラムセッションの聴講事前申込を受け付けています。いずれも無料でご参加いただけます。

当フォーラムでは展示会における新型コロナウイルス感染対策ガイドライン(3密を防ぐためできる限りの換気を行う、オンライン事前入場システムを導入し、参加者同士のソーシャルディスタンスを確保する運営を行う、入場の際はマスクの着用を義務付ける、など)に沿った運営を行うことで出展者、来場者の感染拡大防止策を実施します。今後、政府からBtoB展示会開催に対して自粛要請などの指針が発出された際は、延期または中止の判断をする場合がございます。

【本件に関する問合せ先】 NEXT150 北海道プロジェクト事務局（担当：田中）
一般社団法人日本能率協会 産業振興センター
TEL: 03-3434-3453 e-Mail: hafp@jma.or.jp
〒105-8522 東京都港区芝公園 3-1-22

※取材のお問合せは、広報室（e-Mail: jmapr@jma.or.jp TEL: 03-3434-8620 担当：野口）へ
お願いいたします。

開催概要、本フォーラムのみどころは次頁をご覧ください。

開催概要

催事名称：「北海道アグリ・フードフォーラム 2021」

<http://www.jma.or.jp/hafp/>

開催期間：2021年2月18日（木）・19日（金）10:00～17:00

会場：TKP 札幌ガーデンシティ PREMIUM 札幌大通（札幌市中央区）

企画主体：北海道アグリ・フードプロジェクト実行委員会

開催規模：〈フォーラム〉全16セッション

〈併設展示会〉25社/26ブース

参加対象：農業生産者、農業団体、食品関係者、機械メーカー、
ITベンダー、研究機関、行政 ほか

来場者数：延べ1,500名（予定）

NEXT150北海道
プロジェクト



北海道アグリ・フードフォーラム2020

フォーラム セッション ※敬称略・発表者の都合により内容が変更になる可能性があります。

フォーラムセッション 会場A(5F) 最大100席/各60分/最大10セッション 事前登録制/聴講無料 (敬称略)

	2月18日(木)	2月19日(金)
10:30 ~ 11:30	基調講演 農業分野におけるコマツと石川県の連携活動、コマツのDX 株式会社小松製作所(コマツ)特別顧問 野路 國夫 	
11:50 ~ 12:50	農林水産省政策説明～「食品表示制度とHACCPの義務化など食品事業者の皆様へのお知らせ」 北海道農政事務所生産経営産業部 事業支援課 課長補佐 加藤 浩明  北海道農政事務所消費・安全部 米穀流通・食品表示監視課 調整係長 玉井 修次 	コスト低減と高付加価値化を目指した青果物の鮮度保持流通技術の開発 ホクレン農業協同組合連合会 農業総合研究所 食品流通研究課 課長補佐 吉田 慎一 
13:10 ~ 14:10	生涯生産性を高める哺育・育成からのスマート酪農を目指して 北海道大学大学院農学研究院 畜産科学分野畜牧体系学研究室 教授 上田 宏一郎 	食品の微生物的安全性と高品質を両立する予測技術の展開 北海道大学大学院農学研究院 食品加工工学研究室 教授 小関 成樹 
14:30 ~ 15:30	農業×ドコモ ICTは農業を救う？～モバイルとクラウドサービスで農業の生産性向上へ～ NTTドコモ 北海道支社 法人営業部 エバンジェリスト 齋藤 伸一 	

※発表者の都合により、講演の中止またはテーマが変更になる場合がありますことご了承ください。最新のプログラムは本展ホームページでご確認ください。

フォーラムセッション 会場B(6F) 最大100席/各60分/最大10セッション 事前登録制/聴講無料 (敬称略)

	2月18日(木)	2月19日(金)
10:30 ~ 11:30	食品安全は動いている! HACCP制度化や輸出促進をサポートする食品安全マネジメント認証JFSの最新情報 食品安全マネジメント協会 事業企画・普及推進グループマネージャー 小野 正  オンキリ食品株式会社 品質管理部主任 西澤 克浩  三農総合研究所 HACCPナビ事務局 主任研究員 水川 珠恵 	月で地産地消!? 月面農場で宇宙居住を実現 千葉大学大学院園芸学専攻 教授 後藤 英司 
11:50 ~ 12:50	GFSI承認プログラムと農産加工でのワンポイントレッスン GFSI ジャパンローカルグループ 行政連携ワーキンググループ/DNVGLビジネス・アシュアランス・ジャパン マネージャー 長谷川 清 	海外市場における農産品・食品のブランディングの課題と機会 日本食品海外プロモーションセンター(JFOODO) 事務局長 大泉 裕樹 
13:10 ~ 14:10	道産米の高付加価値化と北海道の酒 北海道酒造組合 会長(田中酒造 代表取締役社長) 田中 一良  北海道立総合研究機構 中央農業試験場 水田農業部 水田農業グループ 主査(水稻育種) 西村 努  北海道農政部 生産振興局農産振興課 こめ係長 加藤 博 	施設園芸の情勢と自然災害対策について イノチオアグリ 代表取締役 石黒 信生 
14:30 ~ 15:30	中国ECビジネスのいま 日本貿易振興機構(JETRO) EC・流通ビジネス課 課長代理 高山 博 	ロボット導入による生産性向上事例と導入企業を支援する新たなサービスの開発について ニッコー 代表取締役社長 佐藤 一雄 
15:50 ~ 16:50	スマートアグリが切り拓く「農業のニューノーマル」 サンプリン太陽園 執行役員 営業事業本部ソリューショングループ ディレクター 兼 経営企画室 室長 白川 努  NoMaps 事務局長 廣瀬 岳史 	食品安全確保に向けた食品安全委員会の役割 内閣府食品安全委員会事務局 情報・勧告広報課長 都築 伸幸 

※発表者の都合により、講演の中止またはテーマが変更になる場合がありますことご了承ください。最新のプログラムは本展ホームページでご確認ください。

■併設展示会 注目出展企業

カテゴリ：「リスク管理」



新型コロナウイルス感染対策に有効な オールインワン除菌システム

YSE（ブース：5）は鉄骨レベルの強度と耐久性を持つ設計の自由度が高い鉄骨倉庫並みの強度のパイプハウスミニチュアをご紹介します。また、コロナ対策に有効でかつ安心安全な次亜塩素水溶液の関連商品を多数展示します。

（今回、感染対策として会場入り口や展示会場内にも導入しています）

カテゴリ：「食品・飲料」

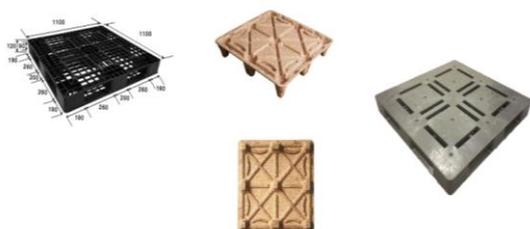


安定生産が可能な

人工光型植物工場産の葉物野菜をご紹介

MIRAI（ブース：30）は、自ら生産者として、高品質な植物工場の野菜を市場に提供し続け、全く新たな植物工場野菜のマーケットを開拓してきました。365日24時間栽培環境をコントロールすることで、野菜の安定品質・安定生産を実現します。

カテゴリ：「物流・流通」



再生パレットにより、物流コスト削減・ 人手不足解消・環境負荷改善を実現

レフォルモ（ブース：27）は、物流に使用される再生プラスチックパレットや木チップパレット製品の展示と廃棄プラスチックパレットのリサイクルについて提案します。同パレットは、物流コスト削減等に加え、積載作業の効率化アップにも貢献します。一時期だけの使用を希望する方へは、レンタルパレットの提供もしています。

カテゴリ：「酪農経営」



AIにより適切な飼養管理を実現【ファームノートカラー】 牛の出産に強い味方登場！【牛温恵】

NTTドコモ北海道（ブース：19）では、AI技術を駆使し、牛の発情徴候や体調不良をスマホへ通知する「ファームノートカラー」と、体温センサーを母牛の膣内に留置し体温を監視することで、分娩の兆候、異常を発見し、メールでお知らせする事で分娩事故減少に貢献する「牛温恵」を提案します。